# ～闘魂記～

「闘魂」･･･魂をもって闘おうとする気持ち

西東京市立ひばりが丘中学校第2学年

第18号 2026年 11月2日(月)

学年目標「根気」と「責任」


## 「 おじぎで広がる思いやり 」

先日の生徒朝会では生徒会から「いじめ防止行動宣言」の話がありました。今月は年に３回ある「ふれあい月間（思いやり月間)」になります。ふれあい月間とは、**「思いやりや助け合いの大切さを考えるために設けられた期間のことで、特にいじめは絶対にしないことを再確認する期間」**です。いじめはどんな理由があろうとも絶対にしてはいけません。いじめはその人の心を深く傷つける人権侵害の行為であり絶対に許されません。

ある地域では横断歩道の手前で止まってくれた車の運転手に小学生がおじぎをするそうです。それはいつもの日常の一コマで、その地域にいけば当たり前のように行われている姿です。では、「いじめ」と「横断歩道の手前で止まってくれた車の運転手におじぎをしている小学生」には、どのような関係があるのでしょうか。

車は歩行者が横断歩道を渡ろうとしていたら一時停止をして歩行者に譲らなくてはいけません。ですので歩行者がおじぎをしなくてもいいのです。むしろ止まらなくてはいけないのは車側の方なのです。

それなのになぜ、この地域ではこのような習慣が広まったのでしょうか。いろいろと調べてみましたが断定できることは分かりませんでした。この地域の小学校で指導したことではなく、誰かが行っていたことが自然と広まったそうです。また譲ってくれた車の運転手におじぎをすることで、車の一時停止率が飛躍的に伸び、事故率も大幅に減りました。**「人のちょっとした感謝の気持ちや優しさ」は「思いやりの心」として人から人へ伝わり、広がっていくということが、車の一時停止率が飛躍的に伸び、事故率も大幅に減ったという事実が物語っています。**

しかし、残念なことに**「いじめ」も人から人へ派生し広がっていきます。**自分の行動や言葉一つで「思いやりの心」は広がると共に「人の心を深く傷つける心」も広がります。みなさんは、どちらの心をクラスで、学年で、学校で広げていけることができるのでしょうか。横断歩道の手前で止まってくれた車の運転手におじぎをしている小学生をヒントに**自分ができる少しの優しさを広げていける、そんな思いやりの心をもった「ひばりが丘中学校の生徒」**であってほしいと思います。

＜保護者のみなさんへお知らせ＞

11月27日（金）～12月4日（金）まで三者面談期間となっています。現在、面談の希望調査をとっています。今週中にご提出いただきますようご協力ください。また、裏面に第２学期期末考査の試験範囲が載っていますのでご確認ください。

「とある先生の日常」

D先生は職場体験の主担当をしています。職場体験先で失礼のないようにマナー講習の教官として指導を実践しました。また、事業所の割り振りや、安全で充実した職場体験になるように事前指導も含め生徒のために入念な準備をしてくれました。そんなD先生は誰よりも「教育に対する熱い情熱」と「生徒に対する深い愛情」をもって教育を実践しています。